

恵那市坂折棚田保存会（恵那市）

農山村

景観・環境・農業・交流

取組の背景

棚田所有者の高齢化や後継者不足が深刻化する中、優れた棚田景観を有する坂折地区を保存するため、平成 11 年に地元農家、自治会、学識経験者からなる検討委員会を設置し、農家の意向を踏まえ、棚田の整備・保全方策及び利活用について検討された。

その結果、景観に配慮しつつ農業の振興を図るために整備を行うエリア、現状のまま営農を維持するエリア等に区分し、保全のための整備を実施した。

整備された棚田を保全していくため、平成 13 年に棚田所有者が中心となり保存会を設立し、稲刈り体験ツアーや農作業体験学習を実施した。この活動の輪を広げようと、平成 18 年に会員を町内外から広く集め、新たに本会を再結成した。

取組の概要

平成 11 年 7 月に、坂折棚田*が農林水産省選定の「日本の棚田百選」に認定されたことを機に、平成 13 年に現在の保存会の前身である坂折棚田保存会が設立され、平成 18 年に会員を再募集し再結成。

坂折棚田に代表される里山の環境保全を進めながら、地域農業の活性化及び都市との交流を通じた豊かで潤いのある地域づくりを推進している。

取組の内容

○棚田稲刈り体験ツアー

地域のすばらしい自然、景観等を見て、棚田

*棚田とは、傾斜地に階段状に築いた水田のことで、別名「千枚田」と呼ばれている。坂折の棚田は、今から約 400 年ほど前から築かれはじめ、明治時代初期にはほぼ現在の形に形成された。地区の中央には坂折川が流れ、その兩岸の標高 410m～610m 付近に東向き斜面に作られた石積みの棚田で、面積は約 13ha あり、全国的でも有数の美しい景観を有している。特徴は、石積みの棚田の中に黒鎌（くろくわ）と呼ばれる専門の石工によって積まれていたと思われる石積みが多く見られることである。平成 15 年 9 月には、第 9 回全国棚田サミットが開催された。

や農山村の果たす役割を理解してもらうため、平成 12 年から都市住民との交流を進めている。

○地元農業高校との棚田保全活動、小学生による棚田体験学習

棚田を貴重な地域の学習教材として位置づけ、郷土を愛する心をはぐくもうと、平成 13 年から地元小学校や農業高校の生徒による農作業や棚田の現状や問題点に関する調査・研究などに取り組んでいる。

○全国棚田サミット開催

棚田が持つ水源かん養、洪水防止などの公益的機能に対する国民の理解と合意、地域資源を活用した農山村と都市との交流、21 世紀を担う子供たちへの体験学習の積極的な導入を目的に、平成 15 年に第 9 回全国棚田（千枚田）サミットが恵那市で開催された。

○棚田コンサート

地域住民や都市住民が気軽に参加でき、農村景観とやすらぎ空間を体験できる坂折棚田広場を活用した棚田コンサートを中野方町観光協会と連携して開催している。

○高齢者や不在地主の依頼による農地の保全活動
地域全体で棚田を守っていくため、耕作ができなくなった高齢者や不在地主などからの依頼に応じて、農地の保全活動を実施している。

○棚田オーナー制度の実施による体験農業
農村の景観や棚田の保全を広く都市住民に理解してもらうため、平成 18 年から棚田オーナー制度を実施している。



坂折棚田

成果

平成 15 年に開催された全国棚田（千枚田）

サミットを契機に、さらに坂折棚田へ来訪する人たちが増え、棚田保全に対する意識が高まっている。

- ・棚田所有農家が話し合い、里山の環境保全、地域農業の活性化と都市との交流を通じた地域づくりを推進することになっている。
- ・保存会の会員は70名となり、農家以外の会員とともに地域全体で棚田を守っていくという体制づくりが進み、耕作放棄地の活用を積極的に進めている。
- ・棚田を地域の学習教材として位置づけ、学生に農業体験を通じた郷土愛の醸成や自然の良さを実感させている。
- ・オーナー制度の開始や体験ツアーの継続的な実施により、都市住民へ水田の持つ多面的機能への理解を深めた。
- ・農協、観光協会、青年会議所、民間企業、高校、市町村、県など多くの組織が連携した活動が行われた。



保存会と棚田オーナーの対面式

成果の要因

- ・棚田所有農家や地域住民の理解、保存会役員のリーダーシップ
- ・全国棚田（千枚田）サミットの成功
- ・耕作できる棚田所有農家の後継者がいなくなっていくというピンチを地域で守るというチャンスに変えた保存会の活動
- ・農業生産活動、生産された米の消費・販売活動、都市との交流活動、教育事業など幅広い活動を展開

今後の課題

○棚田米や棚田米で作られた日本酒「くろくわ」の販売促進

保全活動の継続と保存会や地域の活性化のた

めには、運営資金が必要であり、棚田で作られた米や酒など商品の販売促進が必要である。現在は、量が少ないため欲しくても手に入らない状況であり、周辺の棚田を巻き込んだ活動を行っていく必要がある。

○休耕田の草刈りなど維持管理活動、空き家を利用した休憩施設の整備

オーナー制度を開始したが、都市住民が作業をしたあとの休憩する施設がないため、近くの空き家を活用した施設の整備を行う必要がある。

○NPO法人化し、継続可能な組織として活動

行政への期待

今後の活動を継続していくため、試行錯誤を繰り返しながら少しずつ前に進んでいきたいので適切な助言や知恵をお願いしたい。

また、地域の特徴を生かしていくためには、やはり、その地域に合い、柔軟に対応してもらえ、る支援が必要であるとともに、やる気のある団体等への重点的な支援が必要であると考えている。

この人にお話をうかがいました！

恵那市坂折棚田保存会

会長 田口 譲さん

調査日：平成18年11月15日（水）

調査者：総合政策課 板津、農政課 小野寺